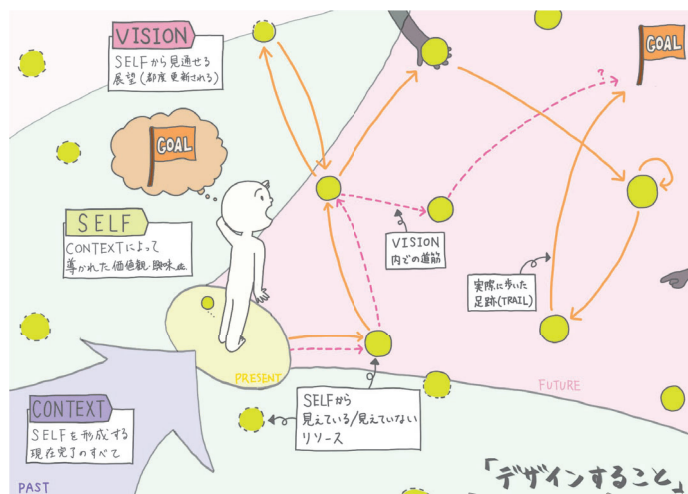


# 令和5年度研究開発学校フォーラム 東京学芸大学附属世田谷小学校

## 研究課題

『未来を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する, Laboratory・Home・Classの3領域で学ぶ教育課程、及び学習環境デザインの研究開発』

## 本校の目指す子ども像



未来において  
「～したい」

これまで、  
自分は～してきた

だから、今は～する

学びをデザインする子

「学びが自分(たち)のものであると自覚し、学びの目標、道筋、表現方法を思考し選択している状態」

## 先行き不透明で複雑な社会の到来

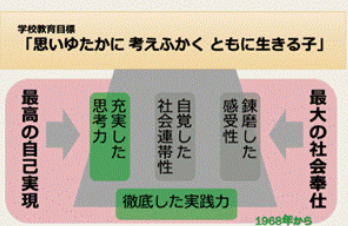
- ・SDGs（持続可能な開発目標）
- ・パンデミック（未知のウィルス感染）
- ・Society5.0（超情報化社会）、生成型AIの登場
- ・Well-Being（多様な幸せ追求）、仕事の在り方

## 教育に求められること

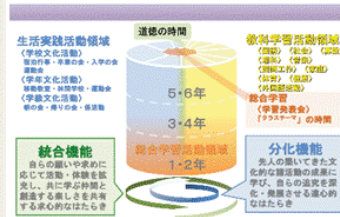
- ・個人の幸福のため
  - ・社会の維持、発展のため
- 総合的な学習の時間でのSDGs・プログラミング必修化・外国語教科化  
 \*\*教育（主権者、金融、食など）・「探究」の必修化・GIGAスクール構想…  
 カリキュラム・オーバーロード（過積載）、教師力の向上  
 コンテンツの追加、ICTの活用、教員養成、研修制度によって  
 解決することもあるだろうけれども…

**能動的に幸福を追究するマインドセットが何よりも重要**

### 世田谷小学校が目指してきたこと



### 1.「学び続ける共同体としての学校の創造」 本校教育課程の基本構想図 ～2機能3活動領域～



- ・学習者主体であること
- ・相互に啓発する学び（協働的、対話的）
- ・学級（子どもと教師）ごとにカスタマイズ、文脈化された学び

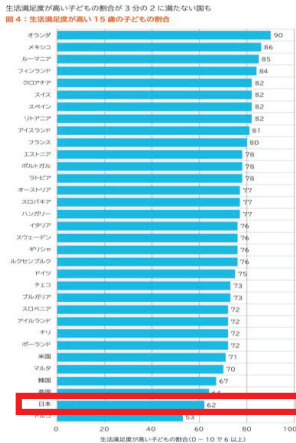
## 課題

- ・学級として括ることによる個に応じた学びの保障
- ・学級最適化、文脈依存性の高すぎる「学び」  
違うコミュニティ、未知の状況での発揮



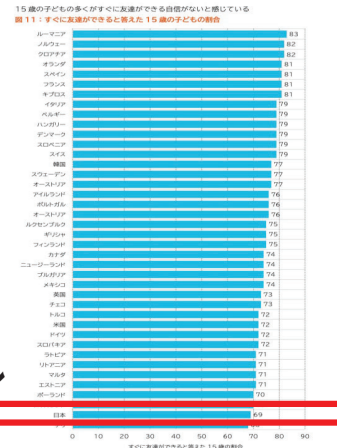
# 研究の背景 国際比較

※ユニセフ・イノチェンティ レポートカード 16(2020)



高い学力

低い社会的スキル



15歳の生活満足度、  
下から2番目  
(身体的な健康は1位)

文化的な相対性はあるものの、以下の可能性の指摘  
・生活の中で意思決定に関われることの少なさ  
・人間関係の閉塞性、排除  
→本校での実感、課題意識にも通ずる

## 研究の経緯 新しい教育課程の開発

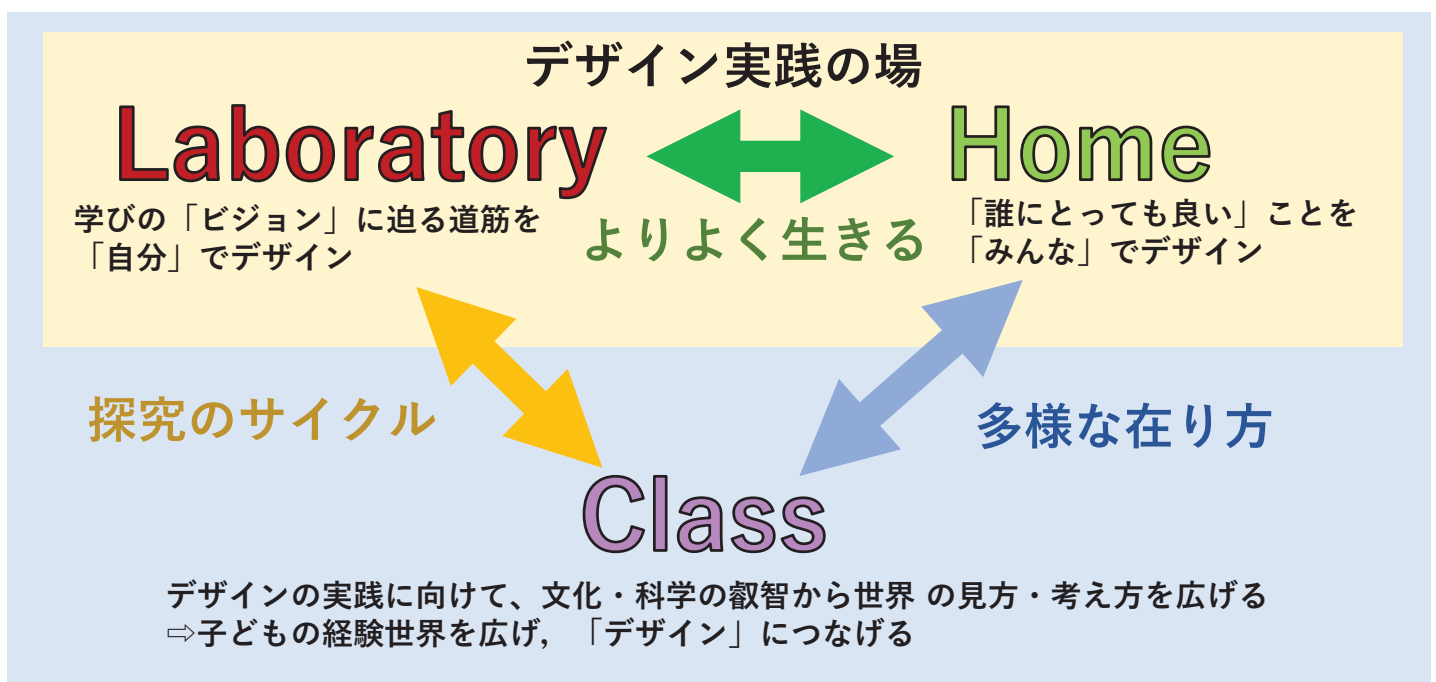


### 文部科学省研究開発学校

教育課程の基準の改善に資する実証的資料を得るため、学習指導要領等現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成実施を認め、新しい教育課程、指導方法等について研究開発を行う制度

時期	研究主題	内容
令和元年度	未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、 <b>個に基づく「じぶんdeラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんなdeラボ」</b> の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発	ラボを主軸とした教科学習の見直し じぶんdeラボの先行実施
令和2年度	同上（コロナ禍により名目指定）	<b>「じぶん」と「みんな」のラボの統合と「みんな」部分の再検討</b>
令和3年度	同上	Laboratoryの実施 <b>学びのデザインの検討、定義「みんな」はHome領域にClassの検討</b>
令和4年度	未来を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する,Laboratory・Home・Classの3領域で学ぶ教育課程及び学習環境デザインの研究開発	<b>3領域の全面実施</b>
令和5年度	同上	3領域の全面実施、2年目最終年度

氏名	所属・役職	備考
藤江 康彦	東京大学大学院 教授	全般を指導 それぞれの専門性から Laboratory（学習環境デザイン、藤江先生） Home（公共性、上野先生） Class（学習科学、益川先生）
上野 正道	上智大学 教授	
益川 弘如	聖心女子大学 教授	
岸 学	東京学芸大学 名誉教授 東京学芸大学教育インキュベーション推進機構共同研究員	学習評価について
松浦 執	東京学芸大学 教授	前前校長（事業開始時に校長） 先進的な教育の在り方について
松本 至巨	東京学芸大学附属高等学校	相互の接続について実効性のあるレベルで物事を共同して進める
渡邊 裕	東京学芸大学附属世田谷中学校	



# Laboratory 自分で学びをデザインできるように



## Laboratory (探究)

子どもが学びたいこと (内容)  
どのように探究するか (方法)  
どのようにまとめるか (表現)

教科の学びは探究に活かされ、探究は教科の意味づけをかえる  
※学習指導要領総則 “～人生において「見方・考え方」を自在に発揮し…”

## Class (教科)

既存の知識 (内容)  
ものの見方・考え方 (方法)  
成果物 (表現)



# Laboratory 自分で学びをデザインできるように



自由に探究しましょう  
主体的に学びましょう

には前提が必要

**2023 R5 Laboratory 研究室一覧**

- 未来の地球** 先生: 1名 (1人) 未来の地球を想像し、その未来の地球をデザインする。
- 「エネルギー・Lab」** 先生: 1名 (1人) エネルギーの不思議を探る。
- 「データ Lab」** 先生: 1名 (1人) データの力を活用して問題を解決する。
- 「食 Lab」** 先生: 2名 (2人) 食の文化や栄養について学ぶ。
- 「フジツバタ科」** 先生: 2名 (2人) フジツバタ科の植物について学ぶ。
- 「ことば Lab」** 先生: 3名 (3人) ことばの力や表現について学ぶ。
- 「自由な算数 Lab」** 先生: 3名 (3人) 算数の面白さや応用について学ぶ。
- 「ヒジメス Lab」** 先生: 2名 (2人) ヒジメスについて学ぶ。
- 「スポーツ Lab」** 先生: 3名 (3人) スポーツの楽しさや健康について学ぶ。
- 「音楽探検」** 先生: 1名 (1人) 音楽の歴史や文化について学ぶ。
- Science Colloquium** 先生: 1名 (1人) 科学の話題について学ぶ。
- 「つつが Lab」** 先生: 20名 (20名) つつがについて学ぶ。
- 「HIPHOP 研究」** 先生: 1名 (1人) HIPHOPの文化や音楽について学ぶ。
- 「みる・つくる Lab」** 先生: 1名 (1人) 見る・つくるの楽しさについて学ぶ。
- 「日本文化 Lab」** 先生: 2名 (2人) 日本の文化や伝統について学ぶ。
- 「伝統 Lab」** 先生: 13名 (13名) 伝統文化について学ぶ。

# Home 生活をデザインする



## 個々の違いがよく見える

### Homeで大事にする考え

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
8:20~9:00	Home	Home	Class	Home	Home
10分					
9:10~9:50	Class	Class	Class	Class	Class
10:00~10:40	Class	Class	Class	Class	Class
10:40~11:00					
11:00~11:40	Class	Class	Class	Class	Class
11:50~12:30	Class	Class	Class	Class	Class
12:30~13:50	Home	Home	Classで弁当	Home	Home
14:00~14:40	Class(2~6年)	Laboratory		Class(3~6年)	Laboratory
14:50~15:30	子ども会議	Laboratory		Class(3~6年)	Laboratory
最終下校	14時45分	15時35分	13時15分	15時35分	15時35分

1

年れいや性別などをこえて、みんなできつていく

2

「自分にとってよいこと」が「他人にとってもよいこと」であるか話し合って決める

3

自分と自分以外のすべての人のことを考える

4

約束は、よりよいものに向けて新しくしていくことができる

# Home 生活をデザインする

- ・ 話が伝わりにくい
- ・ 集団の意思決定に時間がかかる
- ・ 思い通りにはいかないことが「ふつう」



空気読めないやつ  
頭が悪いから  
もしかしたら...?  
本当に大切なことは?  
立ち止まって考え始める



宿泊の部屋決めに関する話し合い  
「自由はむずかしいけれど・・・」



多数決にも疑問  
「君は手をあげていないけど？」

# Classでの資質・能力を自在に（教師は意図的に）

## 意図的、計画的な縦横断できるカリキュラム・マネジメント



マネジメントの軸として  
 学校教育目標 > **学びをデザインできる子** > 教科目標

# Classでの資質・能力を自在に（教師は意図的に）

## 意図的、計画的な縦横断できるカリキュラム・マネジメント

		Class					
		2A	2B	2C	2D	2E	2F
タイプ	ミニラボ	田	海	河	水	野	橋
理科	Science Colloquium	ここで「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。
算数	データ	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。
算数	自由な算数	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。	「身の回り」の身近な現象について「自分なりの見解」を語り合う。

Laboratoryから見て  
 育ててほしい資質・能力

ClassからLaboratoryに  
 貢献できそうな資質・能力

Class同士の関係  
 開設Laboratoryとの関係  
 毎年、PDCA

東京学芸大学（2015から2017）

「OECDとの共同による次世代対応型指導モデルの研究開発」プロジェクト

汎用的スキル	1 批判的思考力	正しさの評価/他の見方・考え方/根拠をもった考え	態度・価値	1 他者に対する受容・共感・敬意	多様な考え受け入れ/共感/敬意
	2 問題解決力	課題解決/アイデアや工夫/筋道計画		2 協力しあう心	協力・関わり/責任感/集団の方向づけ
	3 協働する力	異論の調整/自分の能力発揮/助け合い		3 好奇心・探究心	興味・関心/知らないことの探求/合理的な答え
	4 伝える力	わかりやすさ/整理した表現/双方向コミュニケーション		4 困難を乗り越える力	粘り強く取り組む/大変なことへの取り組み/再挑戦の態度
	5 先を見通す力	経験/予測/失敗の予測と適切な判断		5 向上心	より高いものをめざす/よい生き方をめざす/目標への努力
	6 感性・表現・創造の力	感性/表現/創造		6 正しくあろうとする心	ルールを守る/自制心/公平さ・公正さ
	7 メタ認知力	モニタリング/遂行/ふり返り		7 よりよい社会への意識	良いものにする意識/社会との積極的な関わり/必要なことを実践

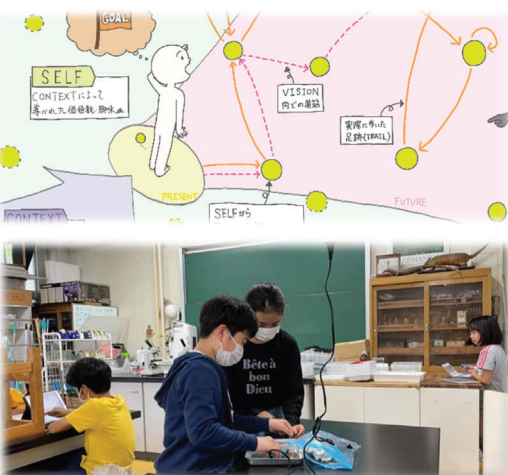
学習者	問題解決	協働する	伝える	先を見通	感性・表現	メタ認知	批判的思考	協力の心	好奇心	困難を乗り越	向上心	正しくあ	よりよい社
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

一人ひとりのデータからも  
子どもを見取り、支える  
過度に枠組みやデータを用いない

		教師の評価	
		高い	低い
児童自己評価	高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の活動に自信をもっている。</li> <li>自己肯定感が高いであろう。</li> <li>このタイプの子には、自由度を与えて活躍させるとよい影響があるかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>虚勢をはっている可能性（精神的不安）→学習指導とは別の対応をする。</li> <li>過大な自信</li> <li>できていないことを具体的に声をかけて不足に気付かせ、<b>自己評価の適正化</b>を図る。</li> </ul>
	低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習には参加できているが不安がある。</li> <li>自分に厳しい性格である。</li> <li>自信をもてるような声掛けをして<b>自己評価の適正化</b>を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面での課題意識がある。</li> <li>具体的な支援をして、成長を認める（言語化して明確に、大げさなくらいに）</li> <li>人間関係や生活状況に不安がある可能性→別の対応が必要。</li> </ul>

よりよく生きる

デザイン実践の場  
**Laboratory** ↔ **Home**  
 学びの「ビジョン」に迫る道筋を「自分」でデザイン  
 よりよく生きる  
 「誰にとっても良い」ことを「みんな」でデザイン



約1年後  
あ、あのときの  
アレがつかえる！



2021年12月  
足元の植物ラボ  
葉から学校の樹木を見分けるスキル

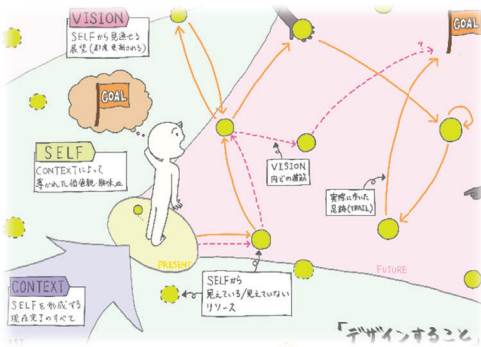
2022年11月  
日本文化ラボ  
学校の植物で紙漉きをしたい

誰かのデザインが、誰かのリソースに  
学びが開かれる

いつ、どこで、何がつながるか予見は難しいが、  
つながることを信じて、子どもがつなげやすい学習環境をデザインする



# 子どもは学びをデザインできたか



学びをデザインする子  
「学びが自分（たち）のものであると自覚し、  
学びの目標、道筋、表現方法を思考し選択している**状態**」

外的基準をもって、  
「学びのデザイン」評価はしない

→デザインの優劣  
自分は、LaboratoryやHomeに  
向いていないという**負のマインドセット**  
→適応、最適化、形骸化  
与えられたものをこなす**矮小化**

子どもがデザインしている状態を保ち続ける  
学習環境のデザインを教職員が不断に行  
う必要性



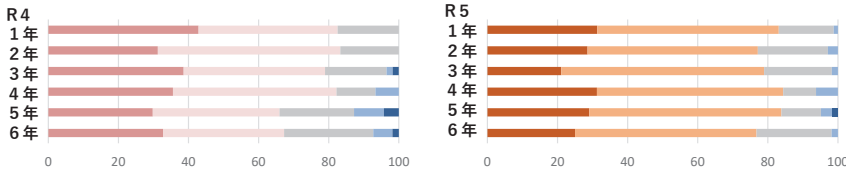
## 教職員への影響

- ・ 自分の授業実践と他の実践とのつながりを意識する
- ・ コミュニケーションの必然性、量の増加と質の変化
- ・ 多人数で子どもを育てる良さ
  
- ・ 顔と名前が一致する子が増えた。あいさつが増えた
- ・ 健やかな子が増えた（柔軟さ、受容性）
  
- ・ 多忙化、業務の精選が必要
  - 公立学校などへの還元可能性
  - システム化を進めながらも形骸化をさけるには・・・
- ・ 「今までと違う」 やりがいとストレス

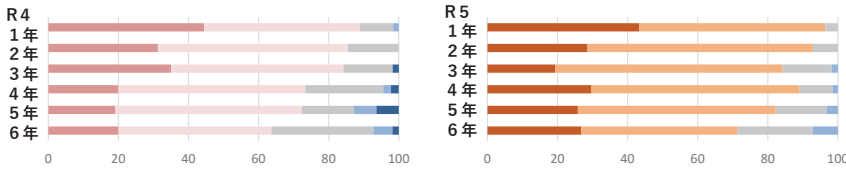
# 保護者アンケートより Home

左：R4年度7月 右：R5年度7月

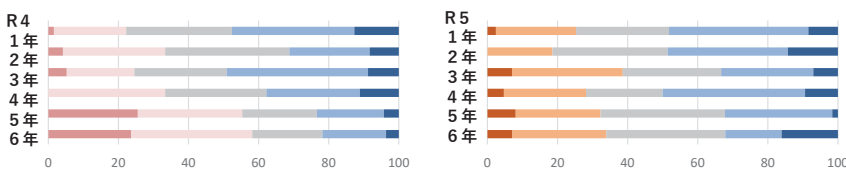
「Home」の時間において自ら意欲的に生活に取り組んでいると思いますか



「Home」の時間について新しい発見や成果はありますか



「Home」の時間について不安や課題はありますか



とてもそう思う    そう思う    どちらとも言えない    そう思わない    まったくそう思わない

- ・毎学期、面談後に実施
- ・どの回も、回答率は概ね6割ほど
- ・肯定的な意見は微増し、不安や課題は微減
- ・在籍途中でのシステム変更は  
高学年において不安がみられる

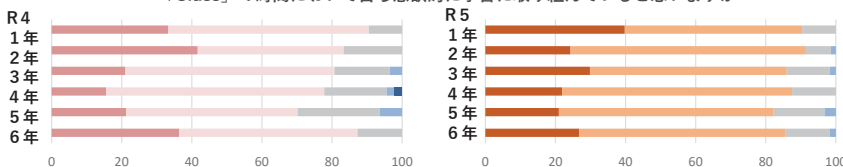
## 主な内容

- ・兄弟姉妹、地域で異年齢で過ごす機会が少ないので貴重な場である
- ・臆さずに自己主張し、人と関われるようになった
- ・高学年に憧れがもてた
- ・高学年が自己中心的に振る舞い、低学年が置いてけぼりである
- ・低学年のお世話をせねばならず、貴重な最終学年で思い出がつかれない
- ・運動会、林間学校がない

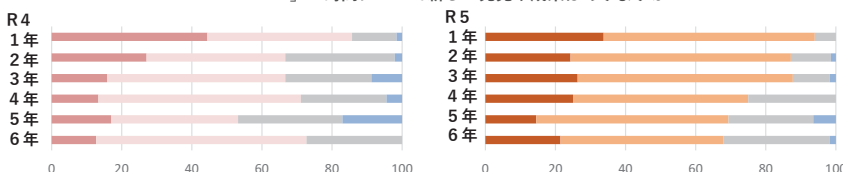
# 保護者アンケートより Class

左：R4年度7月 右：R5年度7月

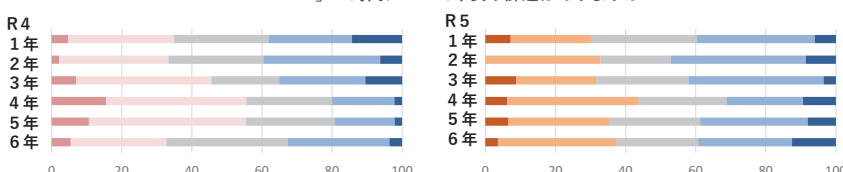
「Class」の時間において自ら意欲的に学習に取り組んでいると思いますか



「Class」の時間について新しい発見や成果はありますか



「Class」の時間について不安や課題はありますか



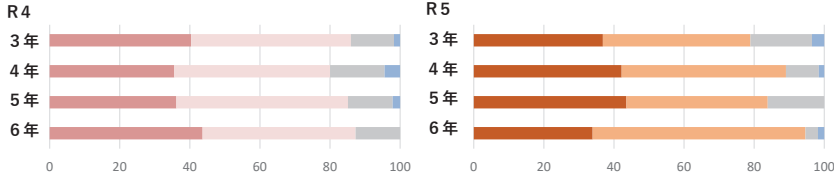
とてもそう思う    そう思う    どちらとも言えない    そう思わない    まったくそう思わない

- ・教科の専門性が高くなり、子どもが楽しんでいる。
- ・テスト、ポートフォリオや三者面談で子どもの学びの状況がよくわかるようになった。
- ・居場所が複数あるのは良い
- ・どのクラスも同じ内容、進度になったことは良い面であるが、学級の独自性がなくなったのは残念
- ・授業毎の教室移動が、良い/負担
- ・誰が責任もって子どもを見てくれるのか。トラブルの解決が心配
- ・教科学習が減り、受験への影響が心配

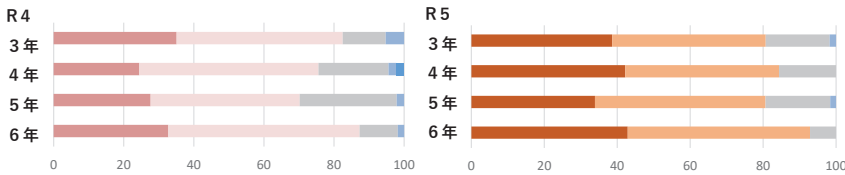
# 保護者アンケートより Laboratory

左：R4年度7月 右：R5年度7月

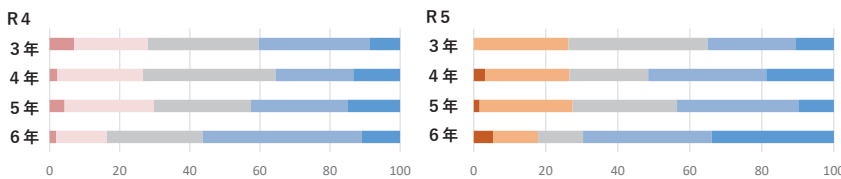
「Laboratory」の時間において自ら意欲的に研究に取り組んでいると思いますか



「Laboratory」の時間について新しい発見や成果はありますか



「Laboratory」の時間について不安や課題はありますか



とてもそう思う    そう思う    どちらとも言えない    そう思わない    まったくそう思わない

- ・子どもが楽しそうに学校に行く
- ・好きなことを伸ばせる
- ・問題発見から解決までできていた
- ・与えられた学びでないから
- ・他のメンバーに助けられた、刺激になった
- ・自分なりの試行錯誤が見られた
- ・デザインすることは、一朝一夕でできない。良い機会
- ・先生からサポートを得られた/得られなかった
- ・難しい
- ・親の負担が大きい

# 保護者アンケートより その他

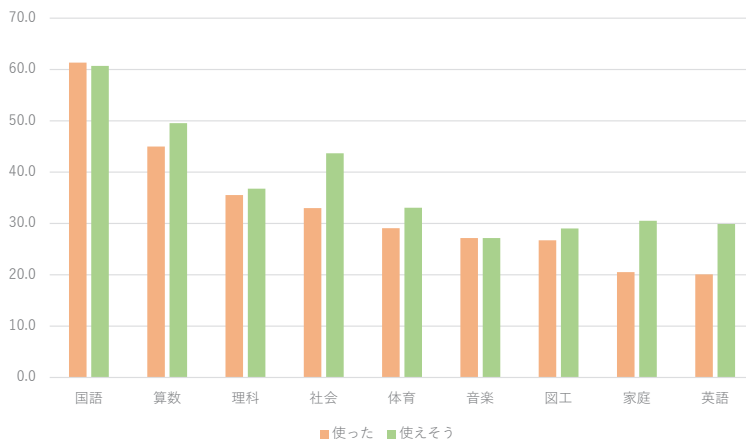
- ・どんな場面でも、主張でなく提案をするようになった
- ・何にでも仮説をもつようになった、なぜと問うことが増えた
- ・挑戦するようになった
- ・習い事でも異年齢の子に話しかけるようになった
- ・知らない子に助けてもらったり、声をかけてもらったりした
- ・時間管理が上手になった
- ・主張しながらも折り合いをつける態度
- ・知らない先生がいなくなった
- ・人それぞれ、と多様性を認める発言が増えた
- ・状況を見てお手伝いをするようになった
- ・ずっと気を張っていて疲れる、イライラする
- ・Home担任との面談では、学習面の情報が十分でない

## 児童アンケートから

時期：R5年度12月  
対象：3,4,5,6年生  
内容：各教科



Classで学んだことを  
ラボで生かしたか、生かせそうか



- 学びのデザインにつながる  
ツールボックス足り得たか
- 「読み書きそろばん」の強さ
- 教科固有性と汎用性
- 「ツール」に名称がある場合
- 教科内容を直接活かしたのか、  
抽象化したツールで生かしたのか

## 児童アンケートから

時期：R5年度12月  
対象：全学年  
内容：Homeとは  
どのような時間、場所ですか



回答数：484

肯定的な回答：172件

- 「楽しいことがある、楽しみである」「安心・安全」「互助と成長」  
低学年からも与えられる、学年ラベルで認識しない

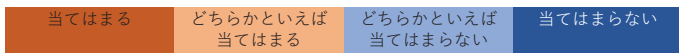
否定的な回答：4件

- 肯定的回答内の否定「温かみのある場所、ときどき問題もある」など
- 小さい子のお世話が負担、上級生役割期待に応じる/甘える

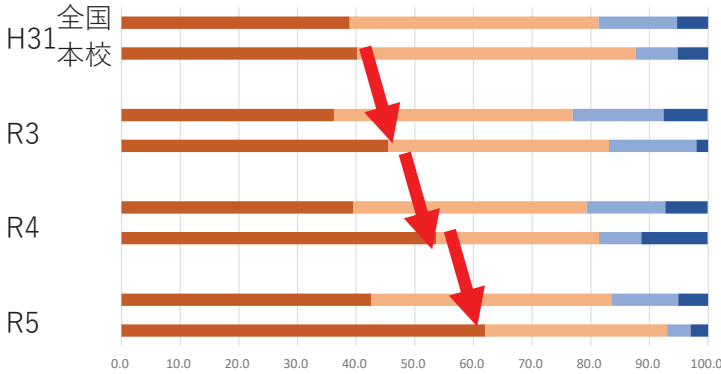
説明的回答：307件

- 話し合いやご飯を食べるという機能面
- 多様性と包括性

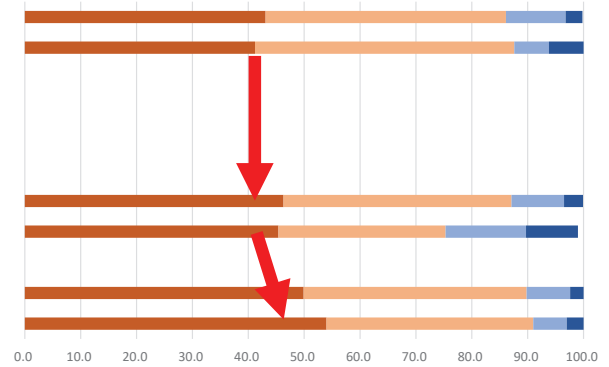
# 全国学力・学習状況調査より



自分には、よいところがあると思いますか



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

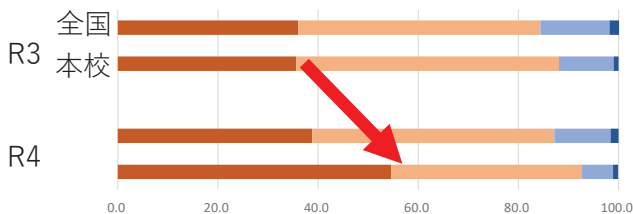


**H31からR5で20%強の変化**  
**3領域で、複数教員により多面的に見られること**  
**3領域で、良さの発揮場面が増えたか**  
**教員の子どもの見る目も変わった実感あり**

# 全国学力・学習状況調査より

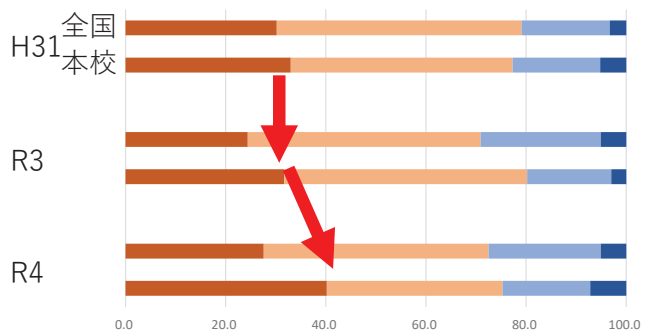


自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか（令和5年度なし）



**20%の変化**  
**R3は3領域の全面実施**  
**先行Laboratoryの影響もあるか**

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか（令和5年度なし）

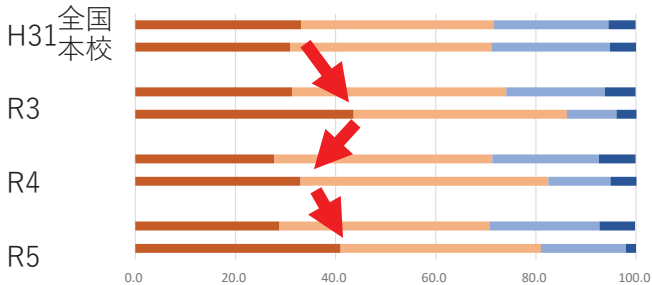


**10%の変化**  
**デザインは試行錯誤**

# 全国学力・学習状況調査より

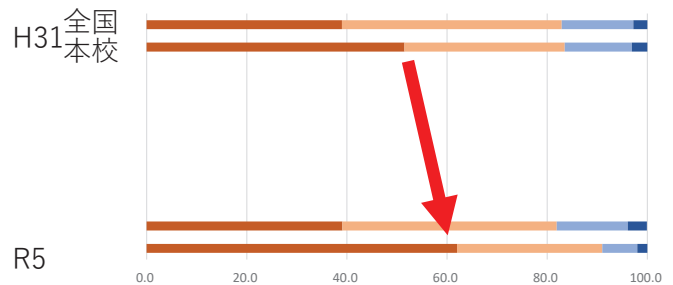
当てはまる    どちらかといえば当てはまる    どちらかといえば当てはまらない    当てはまらない

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか  
(学校の授業の予習や復習を含む)



平均より低かったが、  
一貫して高くなった。  
R4は3領域全面実施により  
教科担任制になった

授業で学んだことを、ほかの学習で  
生かしていますか (令和3, 4年度なし)

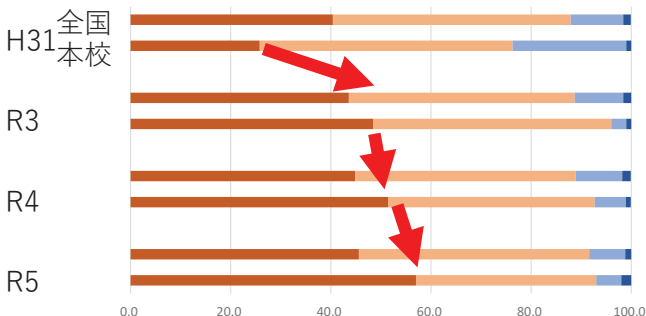


10%の変化  
「生かしている」の捉え方

# 全国学力・学習状況調査より

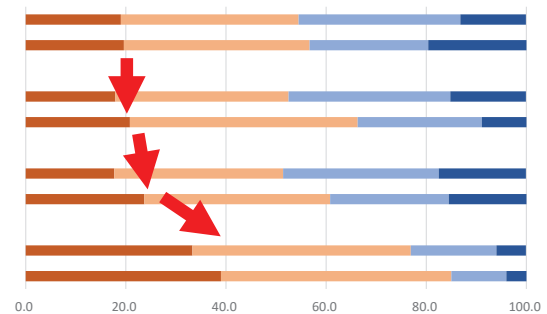
当てはまる    どちらかといえば当てはまる    どちらかといえば当てはまらない    当てはまらない

人が困っているときは、  
進んで助けていますか



H31は平均より低い  
R5との比較は25%  
Homeで身近に助ける対象がいる  
助けやすい環境 (同調圧の低さか)

地域や社会をよくするために  
何かしてみたいと思いますか

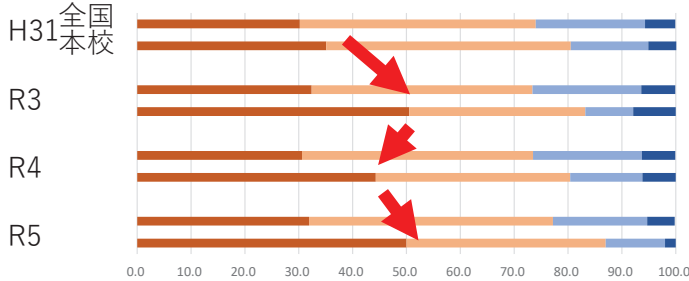


全国的にも大きな変化  
(R4からR5で16%)  
社会の変化を受けているか

# 全国学力・学習状況調査より

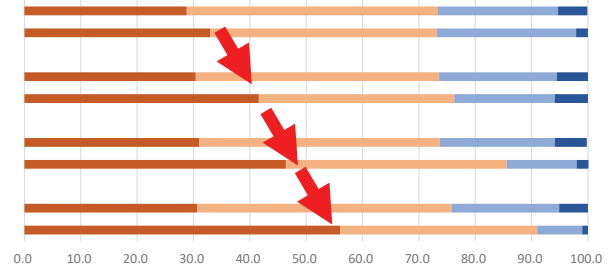
当てはまる    どちらかといえば当てはまる    どちらかといえば当てはまらない    当てはまらない

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



H31とR5では15%の変化  
「学級」を何と捉えたか  
Classの対話的な学びか  
Homeの公共的な対話か

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

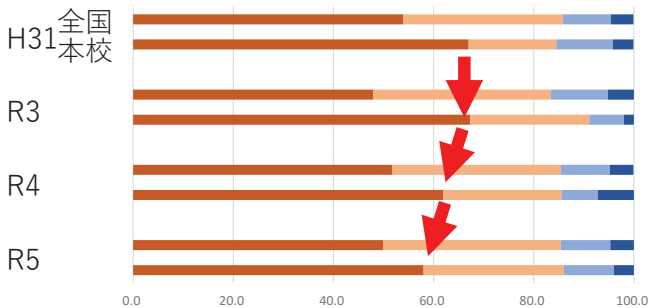


H31からR5では20%強の変化  
Homeでの自分の役割の自覚か

# 全国学力・学習状況調査より

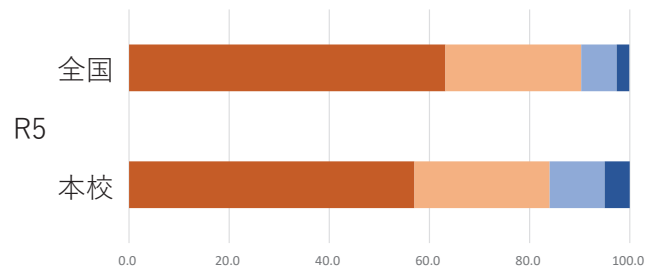
当てはまる    どちらかといえば当てはまる    どちらかといえば当てはまらない    当てはまらない

学校に行くのは楽しいと思いますか



平均値に近くなってきた  
「楽しさ」の性質の変化か  
思い通りのいかなさか

友達関係に満足していますか



平均より低い項目  
Class（同学年）での  
濃密な時間への喪失感か

### < 成果 >

子どもの言動、教員の実感、各種アンケートでも課題解決への前向きな要素が見られた

### < 課題 >

Laboratoryの評価とClassの在り方、Homeの目的と活動の精選  
学校リソース配分の適正化

### < 今後 >

- ・教育課程特例校（申請中）として3領域の教育課程を継続予定
  - ・Laboratoryは総合的な学習の時間、Homeは特別活動  
Classは学習指導要領に。それぞれを精緻化していく
- 一般化や公立学校、地域への還元を図る